

施設キュウリ栽培ほ場のリン酸蓄積状況

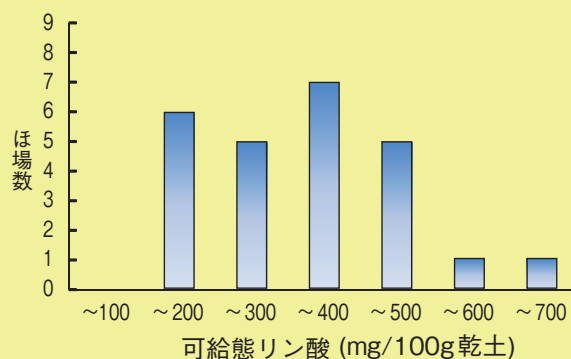


図1 作土層の可給態リン酸の実態

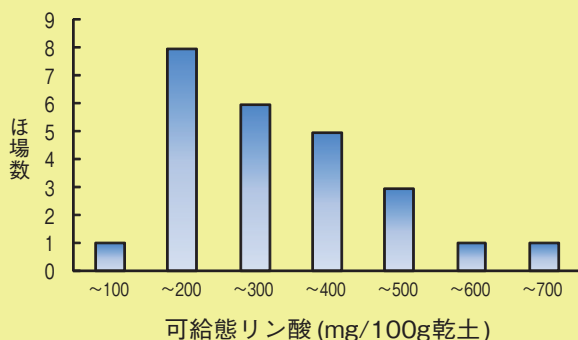


図2 下層の可給態リン酸の実態

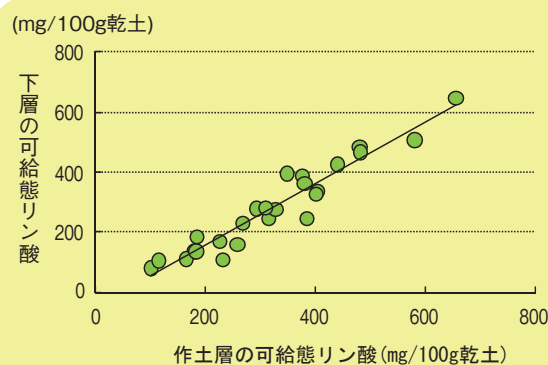


図3 作土層と下層の可給態リン酸の関係

先頃、リン酸資源の減少や国際的な需要の増加などによりリン酸肥料の価格が高騰しました。しかし、リン酸は過剰施肥による障害が発生しにくいことなどから作物吸収量より多く施用される傾向がみられます。そこで、リン酸を有効に利用していくための省資源型農業の試験に取り組んでいます。ここでは、県内の促成キュウリ栽培ほ場25カ所で土壌を採取し、土壌中のリン酸含量を調査したので報告します。

キュウリ栽培終了前後に作土層とその下層（作土層下20cm）に分けて土壌を採取し（採取期間：5月27日～7月9日）、風乾調整後、土壌中のリン酸を評価するのに最も一般的な可給態リン酸（トルオーグ法）の分析を行いました。

作土層100g 乾土あたりの可給態リン酸の

分布は、301～400mg が7カ所と最も多く、次いで101～200mg、201～300mg、401～500mg が同程度で、501mg 以上も2カ所ありました（図1）。下層の可給態リン酸の分布は、101～200mg が8カ所と最も多く、201mg 以上は徐々に少なくなるものの501mg 以上のほ場が2カ所ありました（図2）。また、作土層の含有率が高いほど下層も高くなりました（図3）。

県で作成している施設畑土壌の改良目標値は30～100mg/100g 乾土であることから、大部分のほ場で作土層、下層ともにリン酸が蓄積している実態が明らかとなりました。このため、当センターではリン酸蓄積量に応じた減肥試験やリン酸減肥基準の策定などに取り組んでいます。

（土壌肥料担当 森永茂生 088-863-4915）